

一 般 科 目

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	村田秀明 東島正喜	1全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編国語」吉田 生 東京書籍					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 国語を的確に理解し、適切に表現する基本的能力を身につけさせる。 文学・芸術・思想・言語などの広い分野にわたる文章に触れさせ、思考力や感受性を育てる。</p> <p>授業方針： 評論・随筆・小説・詩歌・古典等、さまざまな文章を読解していく。 さらに国語常識についても、時間をかけて習得させる。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題等を含めて総合的に評価する。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
4	現代文	随筆	4	現代文	短歌、俳句
6	"	小説	5	"	評論
2	古文	入門	5	"	随筆
4	"	説話	4	"	文章表現
			5	古文	日記
2	前期中間試験		4	"	詩歌
6	現代文	評論	2	後期中間試験	
4	"	詩歌			
4	"	随筆	6	現代文	小説
4	"	文章表現	8	"	評論
4	漢文	入門、故事	3	漢文	詩文
4	古文	随筆	4	"	思想
2	前期末試験		2	学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』 都留重人ほか 実務出版 プリント資料配布					
参考書：『法とは何か』 渡辺祥三 岩波新書 『憲法を読む』 小林直樹 岩波新書					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 前期は近代市民社会を形成した政治的原理を理解させる。後期は、憲法は何のために存在するのか、国民にとってどういう意味をもっているのか、という基本的問題を理解させる。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、論理的な思考力を身につける。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験を重視する。また授業ノートを評価の参考にする。</p> <p>学習方法： 説明をよく聞き、教科書、ノートを丁寧に読む。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
3	1. 政治と国家	4	5. 日本国憲法の基本的性格		
4	2. 民主政治の基本原理	4	6. 日本国憲法と基本的人権		
1	前期中間試験	1	後期中間試験		
4	3. 各国の政治制度	4	7. 平和主義と憲法		
4	4. 社会主義国家とその革命	3	8. 国際政治と日本		
1	前期末試験	1	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二 時松雅史	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『世界の歴史』 神田信夫、柴田三千雄 山川出版社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 現代の世界がどのようにして成立してきたかについて、大筋を理解させる。</p> <p>授業方針： 東ヨーロッパ世界・西ヨーロッパ世界・イスラム世界の特色と成立課程を理解させる。(東アジア世界については第2学年で日本史とのからみで取り上げる。) 近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験を軸に評価する。</p> <p>学習方法： よく話を聞き、教科書中の地図・年表を良く見て、大筋をつかむ。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	1. 古代オリエント世界と音標文字の伝播	4	1. ヨーロッパ中世封建社会の解体と集権国家体制の確立		
2	2. 古代ギリシャとヘレニズム文化の普及	4	2. ヨーロッパ市民革命		
1		1	後期中間試験		
2	3. 古代ローマ帝国とキリスト教の成立	4	3. 産業革命と資本主義の確立		
1	前期中間試験	3	4. 労働運動と社会主義		
3	4. 古代ローマ帝国の崩壊とビザンツ帝国の成立	1	学年末試験		
3	5. ゲルマン民族の移動と西ヨーロッパ世界の成立				
3	6. イスラム帝国の成立と拡大				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地理	宝月拓三	1全	2(1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「詳説 新地理 三訂版」 山本正三 二宮書店 地図帳：「新詳高等社会科地図 五訂版」 帝国書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：世界各地に展開するさまざまな生活のありさまを理解するために、生活を支えあるいは規定するであろう自然環境に関して、基礎的な理解を得る。</p> <p>授業方針：教科書にある基本的知識の理解をさらに深めるために解説を加え、さらに、これら知識の習得を前提に、幾つかのテーマに沿って、多様な自然環境の理解を深めさせる。</p> <p>評価方法：4回の定期試験により、総合的に評価を行う。</p> <p>学習方法：毎時の予習・復習を勧める。予習時には基礎知識をノートに整理し、授業時には新たな知見をノートに書きとり、復習時にこれらの再確認を行う、という作業を飽きることなく繰り返す。時に地理学関係の辞書等を図書室で調べるくらいの積極性も望まれる。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	人間生活と自然・自然環境・環境 地形環境	1	気候環境		
1	地形の形成営力	2	気候の地域性と気候因子		
2	プレートテクトニクス論と大地形	1	世界の風系とその成因		
4	変動地形と侵食・堆積地形の諸形態	2	世界の気温・降水量分布		
1	前期中間試験	2	気候環境と植物帯・土壌帯		
3	地形環境(続)	2	世界の気候区		
1	変動地形と侵食・堆積地形の諸形態	1	地域区分の課題とケッペン		
1	日本の地形環境	1	後期中間試験		
2	陸水と海洋	2	世界の気候区(続)		
2	陸水の動態	1	気候区の特徴		
1	世界の海洋	1	日本の気候環境		
1	前期末試験	1	生活と地域		
		3	集落存立の自然的基盤		
		1	集落の諸形態・諸機能		
		1	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 元田康夫 小原康博 五十川 誠	1全	6	必	週6時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「工科の数学 基礎数学」 田代嘉宏 森北出版 問題集：「新編 高専の数学1問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：初等関数の基本的性質を習得する。 計算力を身につけると同時に、論理的にまた総合的に考える力を養う。</p> <p>授業方針：各項目の説明、定理や公式の証明等を行い、実際に問題を解き理解を深める。</p> <p>評価方法：主に各種の試験(4回の定期試験、夏季共通試験、その他各教官が行う試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p> <p>学習方法：毎日の予習・復習による積み重ねが大事である。教わった項目はすぐに問題解きを行い、定理・公式等を十分に理解し、その重要性を認識しよう。 詳しくは学習のしおりを参考にするとよい。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
12	1. 式と計算	12	3. 関数とグラフ		
12	整式の計算・加減乗除	12	いろいろな関数		
10	因数分解	12	4. 指数関数・対数関数		
12	有理式・無理式	12	指数関数		
12	2. 方程式と不等式	12	対数関数		
2	2次方程式	12	5. 三角関数		
2	前期中間試験	2	三角関数の定義		
10	判別式	2	後期中間試験		
12	3. 関数とグラフ	14	三角関数の性質		
12	いろいろな方程式	14	加法定理とその応用		
12	2次関数	14	三角形の性質		
10	不等式	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
化学	上土井幸喜 大吉貴美子 原田琢磨	1全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「化学ⅠB」小林正光・野村祐次郎 他 数研出版 問題集：「リードα標準化学ⅠB」 数研出版 「化学 B基礎ノート」 数研出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：物質相互間に存在する深い関連性を見出し、系統的かつ総合的に物質を理解する能力を身につけさせる。</p> <p>授業方針：化学に対する興味と理解を深めるために、各項目の説明に演示実験を加え、さらに数テーマの実験を行う。また、教科書や、問題集の問題も解く。</p> <p>評価方法：4回の定期試験、夏季共通試験、その他小テスト、実験レポート等で評価を行う。</p> <p>学習方法：授業中の理解を確実にするために、予習・復習は必ず行い、問題意識をもって授業にのぞむ。教科書や、問題集の問題を自分で解き事項の整理や理解を一層深める。疑問を生じたら、そのまま放置しないでどんどん質問すること。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
10 10 10 10 2	第1編 物質の構成と化学結合 物質の構成 粒子の結合 粒子の相対質量と物質質量 前期中間試験	10 10 10 2	酸と塩基の反応 酸化還元反応 電池と電気分解 後期中間試験		
4 6 6	第2編 物質の状態 物質の三態 気体 溶液	4 4 4	第4編 物質の性質（Ⅰ） 典型元素とその化合物 遷移元素とその化合物 第5編 物質の性質（Ⅱ） 有機化合物の分類と分析 脂肪族炭化水素		
10 2	第3編 物質の変化 化学反応と熱化学方程式 前期末試験	4 4 2 2 2	アルコールと関連化合物 芳香族化合物 糖とアミノ酸 学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態	
保健体育	宅島 章 四宮一郎 粟谷 敦 中村明美	1全	3	必	週3時間通年	
教科書・参考書等						
教科書：「新高等保健体育」 松田岩男 他9名 大修館書店						
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。 6. 剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。 7. 礼儀を重んじ、相手を尊重する態度を育成する。 						
授業進度・内容						
時数					時数	
6	全	4/13~5/12 スポーツマン適正テスト測定	14	3期 1/12~2/23 1班 陸上・トレーニング実践 2班 バレーボール 3班 サッカー 女子 ダンス	担当者 粟谷 四宮 宅島 中村	
14	1期	5/19~10/13 1班 サッカー 2班 陸上・トレーニング実践 3班 バレーボール 女子 バスケットボール	担当者 宅島 粟谷 四宮 中村	23	剣道 M 4/25~12/12 E 4/27~12/14 C 4/25~12/12 B 4/25~12/12	担当者 四宮 四宮 四宮 宅島
6	全	6/23, 6/30, 7/7 水 泳				
14	2期	10/20~12/8 1班 バレーボール 2班 サッカー 3班 陸上・トレーニング実践 女子 ソフトテニス	担当者 四宮 宅島 粟谷 中村	7	保健 M 1/9~2/20 E 1/11~2/22 C 1/9~2/20 B 1/9~2/20	担当者 四宮 四宮 四宮 宅島

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
美術	中野和枝	1全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
別になし					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標及び方針： 絵画や彫刻などの純粋芸術としての「美術」としてより実社会との深い関わりがある「デザイン」の基礎として「形や色」を基本に実技を主としたものとする。 形は主にデザインを中心とし、色は、三原色から12色相環づくり。 形と色をまとめたかたちとして、C.D ジャケットなどの製作を通して「デザイン」の一つの手法を学ぶ。</p> <p>評価方法： 各作品の平均点とする。</p> <p>学習方法： 物体を単純な形にすると、立方体や球などの基本の形となる。その形には高さや幅や奥行があり、その比を正確にとらえ、光と影で表現する。又、物体には必ず色がある。三原色（赤、青、黄）から生まれる色について学習し、その色が生まれて来る過程や隣り合う色によってその色が変化することなど体験する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数			
1	オリエンテーション、明度尺	1	メビウスの輪づくり		
5	立方体、球、円錐、円柱など、基本形のデッサン（コンテ鉛筆による）	1	メビウスの輪デッサン 5ポーズ		
4	基本形による平面構成（コンテ鉛筆によるモノクロ表現）	2	メビウスの輪による平面構成 アイディアスケッチ		
1	色についての話し	4	メビウスの輪による平面構成（三原色による）		
1	12色相環台紙づくり	2	CDジャケット アイディアスケッチ		
3	12色相環台紙づくり（三原色による）	5	CDジャケット デザイン		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 I (総合英語)	山田章則 木田裕美子 折田 充 宇ノ木寛文	1年全	6(5)	必	週5時間通年
教科書・参考書等					
<p>教科書：「AURORA I」 上田明子他、中教出版 問題集：「AURORA I WORKBOOK」 中教出版 参考書：「新高校基礎英語」 河上道生監修、桐原書店 「シグマ標準英単語 3000」 吉田研作、文英堂</p>					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎・基本的な運用能力を習得すると共に、自発的な学習習慣を身につける。また、英語学習に加え、外国の文化・習慣に目を向ける。</p> <p>授業方針：「読みとり・聞き取り」についてだけではなく、表現の指導も行う。学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。定期考査や、長期休暇中の宿題の中でも扱う。また、学年共通ポキアブラリーコンテストを行う。2年生に進級する際には、全員が実用英語検定3級の資格は取得できることとする。その他、詳細については、授業の際に適宜説明する。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加と、クラス全体の学習に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
13	Lesson 1 "Chihiro Iwasaki" ・中学までの既習事項の復習	13	Lesson 7 "Sesame Street" ・S+V+C(過去分詞)、未来の受け身		
13	Lesson 2 "Do English Speakers Express Themselves Directly?" ・S+V+O+C(現在分詞)、関係代名詞	13	Lesson 8 "Crows" ・S+V+it+C+to 不定詞 S+V+C(現在分詞)		
13	Lesson 3 "Simulating Flight" ・S+V+IO+DO (that節) 関係代名詞 what	13	Lesson 9 "A World Under the Veil" ・It is ~that節、It is ~ing		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
13	Lesson 4 "Swan Lake" ・過去完了形、S+V+O (whether節) 現在完了進行形	13	Lesson 10 "Imagine" ・未来進行形		
13	Lesson 5 "School Life in America" ・S+V+IO+DO (whether節) S+V+O+C(原形不定詞)	13	Lesson 11 "The Ambassador's Boots" ・S+V+O+C(過去分詞)		
13	Lesson 6 "Why Study English?" ・S+V+IO+DO (what節)、関係副詞	2	学年末考査		
2	前期末考査				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation I	George A. Davies	1年全	-6(1)	Required	1 class per week thru the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>On Your Way--Students' Book I</i> Author: L. Anger, C. Pavlik, M. K. Segal. Publisher: Longman					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
The Aim of this Subject: Is to develop the listening, comprehension and speaking skills as used in every day situations. Teaching Methods: Are by student-centered activities that give the opportunity to practice, grammar, vocabulary, and listening skills from dialogs, tape cassettes and exercises. Evaluation: Is by the use of tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion. What I want the students to study: Is the practical skills in the use of English conversation in situations such as housing, transportation, and employment.					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	Lesson 1 Hi-Introducing	1	Lesson 1 It Has Great View		
1	2 Oneself	1	2 Describing Objects		
1	3 Nice to Meet You	1	3 How Do You Like New York?		
1	4 Greeting and Responding	1	4 Opening a Conversation		
1	5 Review of 1-4	1	5 Review 1-4		
1	6 Are You from San Francisco?	1	6 Is There a Post Office?		
1	7 Discussing Plans	1	7 Asking/Giving Directions		
1	8 What's That?	1	8 Is Marty There Please?		
1	9 Describing Things	1	9 Inviting		
1	10 Review of 6-9	1	10 Review 6-9		
1	11 Can I Help You?	1	11 What's New With You?		
1	12 Hotel Registration	1	12 Reporting Symptoms		
1	13 How was Your Vacation?	1	13 Did You Find a Job?		
1	14 Asking & Telling the Price	1	14 Talking about Work		
1	15 Review 11-14	1	15 Review 11-14		
1	Term Examination	1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	村田秀明 金芳憲雄 川本善之	2全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書:「新選国語二」大岡信 尚学図書					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標: 1年で身につけた知識や言語感覚、論理的な思考力や文学的な感受性に、さらに広がりや深み、正確さや柔軟性を加える。 授業方針: 評論、随筆、小説、物語、詩歌、俳等、いろいろなジャンルの文章をさまざまな方法で読み解く。また、国語の常識、特に言語的要素を習得させる。 評価方法: 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題の提出状況等を含めて総合的に評価する。 学習方法: 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
6	現代文 随筆	6	現代文 小説		
6	" 小説	8	" 評論		
6	古文 日記、随筆	4	" 俳句・短歌		
		4	古文 物語		
2	前期中間試験	4	漢文 史話		
6	現代文 評論	2	後期中間試験		
6	" 詩歌	4	現代文 随筆		
4	" 文章表現	6	" 小説		
4	古文 随筆	4	" 文章表現		
4	漢文 詩文	4	古文 「奥の細道」		
2	前期末試験	3	漢文 思想		
		2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』 都留重人ほか 実務出版 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 現在ロシアをはじめとする旧社会主義国では市場経済化が進みつつある。こうした市場経済を支える基本的な仕組みを理解させる。さらに日本経済の動きを世界経済との関連の中で学ばせる。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、見ていく。経済統計を扱う機会が多いので統計に現れる数字の背景、意味を理解していく。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験を重視する。また授業ノートも評価の参考にする。</p> <p>学習方法： 授業中に出てきた用語をその日のうちに整理する。教科書、ノートを丁寧に読み、理解する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
2	現代経済のしくみ 1. 経済社会の展開	4	国際経済の動向と日本経済 7. 国民経済と国際経済		
2	2. 経済主体の結びつきと市場機構	4	8. 国際経済関係の展開と現状		
2	3. 現代の市場と企業	1	後期中間試験		
2	4. 国民所得と国富	7	9. 国際化の中の日本経済		
1	前期中間試験	1	学年末試験		
4	5. 金融・財政政策				
3	6. 景気変動と経済成長				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史(地歴)	佐藤伸二	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『改訂 日本史』 尾藤正英他 東京書籍 『世界の歴史』 神田信夫他 山川出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 日本が東アジア諸国とどのようにかかわって来たかを理解させ、今後のかかわり方について考えさせる。</p> <p>授業方針： 中国を中心とした東アジアの国際社会の特質(冊封体制)を理解させる。江戸時代の対外関係について正しく理解させる。これらを踏まえて、明治以降の日本の動き(脱亜入欧)について考えさせる。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験の結果を軸に評価する。</p> <p>学習方法： 話をよく聞く。教科書にある地図や年表を見て、おおまかな時代の流れを頭に入れる。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
8	1. 人類の起源と日本人 (イ) 人類の進化 (ロ) 人種と民族 (ハ) 民族の形成		8	4. ヨーロッパ人のアジア進出と日本の対応 (イ) 地理上の発見とイエズス会の活動 (ロ) 秀吉・家康の対外政策	
8	2. 古代東アジア世界の成立と日本 (イ) 秦・漢帝国と弥生文化 (ロ) 騎馬民族の活動と古墳文化 (ハ) 律令国家の成立		10	5. 江戸時代の日本とヨーロッパ (イ) 海を渡った日本のやきもの (ロ) 吉宗の政策と蘭学の発展 (ハ) ヨーロッパ列強のアジア進出 (ニ) ロシアの進出と北方探検 (ホ) 開国と幕末の政変 後期中間試験	
1	前期中間試験		1		
14	3. 中国経済の発達と中世の日本 (イ) 宋王朝の政治と経済の発達 (ロ) 日宋貿易 (ハ) 元寇 (ニ) 日明貿易と琉球の発展		12	6. 日本の近代化と東アジア (イ) 琉球処分 (ロ) 条約改正 (ハ) 日清戦争 (ニ) 日露戦争 (ホ) 日本人のアジア観 (ハ) 第1次世界大戦 (ト) 満州事変	
1	前期末試験		1	学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 元田康夫 小原康博 小鉢暢夫	2全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「工科の数学 微分積分学」 田代嘉宏 森北出版					
問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標・方針：「微分積分学」の第2章 微分法までを習得する。必要事項の説明が終ると教科書および問題集の問題解きを主体に授業が進められる。					
評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。					
学習方法：微分概念をしっかりと把握し、その手法になれること。問題解きを充分にし、理解を深めること。進度は少しずつではあるが、常に新しい概念が導入されるので、その都度充分な理解を示すよう努力しよう。					
必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質を十分に理解しておくこと。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
10	テキスト「工科の数学 基礎数学」 第6章 場合の数	10	5. 関数の連続性と導関数		
		8	6. 対数関数・三角関数の導関数		
16	テキスト「工科の数学 微分積分学」 第1章 数列	16	7. 導関数の応用		
	1. 数列とその和	2	後期中間試験		
8	2. 無限数列	1.4	8. 逆関数と曲線の媒介変数方程式		
2	前期中間試験	10	9. テイラーの定理		
12	第2章 微分法	2	学年末試験		
	3. 整式の導関数				
12	4. 関数の値の変化				
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	五十川 諒 沼田典昭	2全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「工科の数学 線形代数学」 田代嘉宏 森北出版					
問題集：「新編 高専の数学1問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標・方針：「線形代数学」の第2章 空間図形とベクトルまでを習得する。1次曲線2次曲線の基本的事項を講義し、平面および空間図形の基本的性質をベクトルを用いて取り扱う。					
評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。					
学習方法：ベクトルを用いて、図形の取扱が出来るようにし、幾何学的イメージを養うようにすること。具体的な問題を解くことにより理解を深めること。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
10	第1章 平面上の図形とベクトル	4	4. ベクトル		
	1. 点と直線	4	5. 図形とベクトル		
4	2. 円・だ円など(円)		第2章 空間の図形とベクトル		
2	前期中間試験	8	6. 空間の座標とベクトル		
4	2. 円・だ円など (だ円・双曲線・放物線)	2	後期中間試験		
6	3. 不等式と領域	1.2	7. 空間図形の方程式		
4	4. ベクトル	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
物理	北辻 安次 吉沖 周三	2全	4	必修	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書:「新編物理IB」 友正和 他 数研出版 問題集:「物理IB研究ノート」 九高理編 博洋社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標:力学、波動、熱に関する基礎的項目の理解と習得を目指す。					
授業方針:使用する教科書に沿って授業を行うが、適宜、実験を演示することにより理解をうながす。また、学生自身による実験も進度に応じて実施する。項目の進度に応じて教室で問題解答例と添削を行う。					
学習方法:受講者は、教科傍用の問題集を利用して、各自ですんで自宅学習を行うことが必要不可欠である。授業においては、物理的概念の把握を目標とするので、復習、問題解答、実験及び観察を通じてそれらを自分のものとするように自ら努力する。					
評価方法:年4回の定期テストで主に学習及び習得度の評価を行うが、その他に随時行うテストや、実験レポート、感想文などの提出物の評価及び授業参加の態度などの平常の評価も加えて総合的に評価を行う。					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	力学	4	波動		
4	等速直線運動	4	円運動と単振動		
4	速度の合成と分解	4	波動と正弦波		
4	速度と加速度、等加速度運動	2	縦波と横波		
4	落体の運動	4	重ね合わせの原理と干渉		
4	力の合成と分解	4	波の反射・屈折・回折		
4	力のつり合い	4	音速・音波の性質、うなり		
6	運動の法則	4	弦の振動と気柱の振動		
2	前期中間テスト	4	共鳴と共振		
4	摩擦のある運動	4	後期中間テスト		
4	運動量と力積	4	ドップラー効果		
6	運動量保存法則	4	光速、光の反射・屈折		
4	仕事、仕事率	4	光の干渉、ヤングの実験		
4	運動エネルギー・位置エネルギー	4	回折格子、薄膜による干渉		
4	力学的エネルギー保存法則	2	光のスペクトル		
4	保存力と非保存力	2	ボイルシャルルの法則		
2	前期末テスト	2	熱の仕事当量		
		4	内部エネルギー、断熱変化		
		4	熱機関の効率		
		2	学年末テスト		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態	
保健体育	宅島 章 四宮一郎 粟谷 教 中村明美	2全	2	必	週2時間通年	
教科書・参考書等						
教科書:「新高等保健体育」 松田岩男 他9名 大修館書店						
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等						
1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性をもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。						
2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。						
3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。						
4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。						
5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。						
授業進度・内容						
時数					時数	
6	全	4/13~4/27	スポーツマン適正テスト測定		14	3期 1/12~2/23 1班 ハンドボール 2班 バレーボール・陸上 3班 バasketボール 女子 ダンス
16	1期	5/12~9/29	担当者			
	1班	バスケットボール	宅島			
	2班	ハンドボール	四宮			
	3班	バレーボール・陸上	粟谷			
	女子	陸上・バレーボール	中村			
6	全	6/23, 6/30, 7/7	水 泳			
16	2期	10/13~12/8	担当者			
	1班	バレーボール・陸上	粟谷			
	2班	バスケットボール	宅島			
	3班	ハンドボール	四宮			
	女子	陸上・バレーボール	中村			

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
音楽	牧 智 信	2年 全	1	必	週1時間 通年
教科書・参考書等					
教科書： 学生のための「音楽史と鑑賞」 著作者 市川都春・滝本泰三 教育芸術社					
資料： 自作プリント資料 「音楽史による作曲家と時代背景」					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標： 音楽の美しさ楽しさにふれさせ、音楽鑑賞から得た体験を通して、これからの生活に潤いが生まれ生涯学習の一助となる知識と感性を養う。					
授業方針： 音楽史と大作曲家による名曲鑑賞を主内容とし、名曲の鑑賞を通して音楽家に親しみ、その生涯と時代背景などを理解しながら多面的な学習を行う。					
評価方法： 学年末試験を行うとともに、レポートの提出、授業への参加・関心・態度などを加味して評価を行う。					
学習方法： 名曲鑑賞を毎時実施する。音楽史をひもときながら各時代を代表する作曲家の生涯や作品（歌曲・ピアノ曲・器楽曲・交響曲等のジャンル別の分類や特徴）を音楽や映像を通して理解を深める。					
授業進度・授業内容					
時数	前 期	時数	後 期		
2	1. 音楽の基本事項 音楽史の概念と音楽表現や鑑賞における基本事項の理解	6	6. ロマン派前期の音楽 ウェーバー、ロッシーニ、 シューベルト、メンデルスゾーン ショパン、シューマン、リスト、		
2	2. 中世・16世紀の音楽 グレゴリオ聖歌 ルネサンスと教会音楽	6	7. ロマン派後期・国民楽派の音楽 ワーグナー、ベルディ、ピゼー、 J.シュトラウス、ブラームス、 スメタナ、ロシア5人組、サン・ サーンス、チャイコフスキー、 ドボルザーク、グリーグ、シベリ ウス、ドビュッシー、		
4	3. バロックとロココ音楽 パーセル、ビバルディ、バッハ、 タルティーニ、ヘンデル	5	8. 近代・現代の音楽 ラベル、ストラヴィンスキーほか 民族音楽と国際理解		
5	4. 古典派の音楽 ハイドン、モーツァルト				
4	5. ベートーベンの音楽				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 II (総合英語)	木田 裕美子 宇ノ木 寛文	2年 全	5(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「Unicorn II」、文英堂 問題集：「Unicorn II Workbook」、文英堂 参考書：「シグマ基礎総合英語」、末永國明著、文英堂 「シグマ標準英単語 3000」、吉田研著作、文英堂					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標： 英語における4つのコミュニケーションの基礎・基本的能力の充実はかる。とくに「読みとること」と「聞き取ること」に重点を置き、それを基に発信型の英語運用能力の発展を目指す、と共に自立した学習習慣を定着させる。					
授業方針： 「読みとり・聞き取り」についてだけではなく、表現の指導も行う。学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。定期考査や、長期休暇中の宿題の中でも扱う。また、学年共通ポキャブラリーコンテストを行う。長期休暇中には、多読学習の観点から、英語の読み物を課題として与える。その他、詳細については、授業の際に適宜説明する。					
評価方法： 授業への積極的な参加と、クラス全体の学習に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
10	Lesson 1 The Land of Two Seasons ・関係詞の非制限用法ほか	10	Lesson 7 The March to Freedom ・分詞構文(過去分詞)ほか		
10	Lesson 2 A Sri Lankan Student in Japan ・未来代用/前置詞+関係代名詞ほか	10	Lesson 8 An Irish Halloween ・as if ... 仮定法/完了不定詞ほか		
10	Lesson 3 Behind Closed Windows ・There is ~+分詞/仮定法過去形他	10	Lesson 9 Ulysses ・S+V+C(=現在分詞)/時制の一致とその例外ほか		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
10	Lesson 4 Consumerism ・助動詞+have +過去分詞ほか	10	Lesson 10 I Believe ・Stwish ... 仮定法/独立分詞構文ほか		
12	Lesson 5 Bless My Homeland Forever ・S+V+C(=疑問詞+to do など)ほか	10	Lesson 11 I Am a Dancer ・未来完了形/S+V+C(=過去分詞)		
10	Lesson 6 Tea ・関係副詞whereの非制限用法ほか				
2	前期末考査	2	学年末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation II	George A. Davies	2年全	.5 (1)	Required	1 class per week thru the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>On Your Way--Student's Book 2</i>					
Authors: L. Anger, M. Fuchs, C. Pavlik, M. K. Segal.					
Publisher: Longman					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
The Aim of this Subject: Is to encourage students to practice the use of English to gain and give information.					
Teaching Method: Is based on student-centered activity and participation. In situations similar to those they might encounter in the everyday use of the English language.					
Evaluation: The tests are designed to measure the student's acquisition of functions, grammar and the use of English conversation in normal practical usage.					
What I Want the Students to Study: Are the short dialogs from the units, the vocabulary used and the exercises using the tape cassette.					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	Lesson 1 At the Street Market	1	Lesson 1 Some Great News		
1	2 Apologizing	1	2 Speculating		
1	3 Stop that Woman	1	3 A Delivery		
1	4 Describing People	1	4 Expressing an Opinion		
1	5 Review 1-4	1	5 Review 1-4		
1	6 Would You Like a Ride Home?	1	6 A Lucky Break		
1	7 Activities	1	7 Making an Excuse		
1	8 You're a New Yorker Now.	1	8 Are You O.K. ?		
1	9 Confirming Information	1	9 Giving Advice		
1	10 Review 6-9	1	10 Review 6-9		
1	11 Out of Place	1	11 No News Yet		
1	12 Expressing feelings	1	12 Talking about Jobs		
1	13 A Surprise Party	1	13 Looking at the Future		
1	14 Discussing an Event	1	14 Stating Preferences		
1	15 Review 11-14	1	15 Review 11-14		
1	Term Examination	1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
生物学	原 嶋 修 一	2 B	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 増補 最新図表生物 浜島書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標: 生物に関する基本的知識を身につけ、生命について理解する。					
授業方針: 高等学校での「生物」の内容に準拠し、生物学の基本的事項を講義する。生命の基本単位である細胞の構造を手始めに、生命の連続性を支える生殖、生命活動の現れである物質の代謝、遺伝現象と遺伝子発現についての講義を行なう。進化や生態系についても簡単にふれる。					
評価方法: 定期試験で評価する。					
学習方法: 毎回の授業についてノートをまとめ復習する。今後の生物系の専門科目の基礎となる科目であるから、十分な理解につとめる。					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
3	①細胞 組織と器官 細胞の構造 細胞分裂		4	酵素反応	
3	②生殖 無性生殖と有性生殖 配偶子形成と受精		4	⑤物質交代 同化～光合成 異化～酸素呼吸 エネルギーの利用	
3	前期中間試験		2	後期中間試験	
2	生活環		3	⑥遺伝と変異 メンデルの遺伝の法則 遺伝子と染色体	
4	③動物の発生 発生のしくみ		4	変異 遺伝子と遺伝子発現	
4	④生体の化学反応 生体構成物質		2	⑦生物の進化 学年末試験	
	前期末試験				

授業科目名	担当教員	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地学	平晋一郎	2 MEC	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「地学ⅠB」海野和三郎、上田誠也、鎮西清高ほか9名 東京書籍					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：宇宙の構成や太陽系の運動、地球の歴史と地球表面の諸現象の基礎的な知識を習得し、地球環境保全や災害防止に対する科学的な思考能力を養う。</p> <p>授業方針：地学の特徴を理解させるために、できるだけ具体的な事例を取り上げ、正しい自然観を育成させる。</p> <p>評価方法：主に4回の定期試験で評価を行なうが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p> <p>学習方法：気象、天文、地震、火山などの自然現象に常に関心と疑問を持ち、学習したことと照らし合わせてみるのが大切である。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
6	1. 地球の形と内部構造	8	5. 惑星の運動		
8	2. 動く大地	6	6. 太陽の世界		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
6	3. プレーートのきしみ	8	7. 恒星の世界		
8	4. 火山の噴火とマグマの活動	6	8. 宇宙、地球、われら人類		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教員	学年学科	単位数	必・選	授業形態		
国語	金芳憲雄	3全	2	必	週2時間通年		
教科書・参考書等							
<p>テキスト：「国語表現」松村明 旺文社 「常用漢字 書き取りの練習 改訂版」明治書院 自主教材（小説、随筆、詩、短歌、俳句、評論等）</p>							
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等							
<p>学習目標：(1) 種々のジャンル、種々のタイプの文章に触れ、幅広い読解力を身につける。 (2) 社会人として必要な実用国語を身につける。 (3) 言いたいことをきちんと表現できる作文力を身につける。</p> <p>授業方針：演習とその確認を中心に行う。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p> <p>学習方法：受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 その際、次のことを行うこと。 (1) 自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2) 疑問から解に至るプロセスを（試行錯誤したこと全てを含めて）確認する。 (3) 自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等の全てについて、妥当であったか否かをきちんと見極める。</p>							
授業進度・内容							
前期			後期				
時数	読解その他	国語表現	漢字等	時数	読解その他	国語表現	漢字等
12	評論を読む	表現と理解 話すこと 聞くこと 文章を書く 主題	教育漢字を 習得する	4	小説を読む	種々の文章 を書く 手紙 記録/報告 説明/論説	常用漢字を 習得する
2	随筆を読む			12	韻文を読む 詩・短歌 俳句		同音異義語 を習得する
2	前期中間試験			2	後期中間試験		
8	随筆を読む	文章を書く 主題 文章の構成 推	教育漢字を 習得する	10	シナリオを 読む 戯曲 落語	種々の文章 を書く 説明 論説 その他	同音異義語 同訓異字語 故事成語 その他を 習得する
6	小説を読む		常用漢字を 習得する				
2	前期末試験			2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
倫理	小柳正弘 中野嘉明	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
プリントを配布する。					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標・方針：倫理学とは「人間の学」である。私たちが日常ことさらに問題にするのではない人間のありかたが問われる。この講義では常道にのっとり（主として西洋の）思想の流れを学ぶことを通してそれを問いたい。むろん、最も切実なのは「いま・ここ」における私たち自身のありようであろう。しかし、私たち自身のありかたはあまりにも自明とされ慣れ親しまれているので、それを明らかにするためにも「歴史」の中で「いま・ここ」における私たちのありかたを対象化し相対化しなければならないのである。</p> <p>学習方法：しっかり講義をきいて、しっかりノートをとる（私語をしない）。内容的には、「ある立場にたった場合、ある問題について、どのように考えることができるか」ということについて、きちんと理解することが重要である。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。試験では、答案以外のところでの弁明を一切うけつけないので、明せきかつ判明な日本語で解答すること。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期（小柳）	時数	後期（中野）		
2	ガイダンス … みずからをふりかえる。		後期の講義では、人生はいかにあるべきか、この倫理の根本問題を、市民革命のあった17世紀以後の近代思想家の努力の跡をみちしるべとして、現代民主社会を、いかに生き、いかに考えるか、を学んでいきたいとおもう。		
4	倫理（学）とはなにか … 倫理と道徳 … 人間とは				
2	西洋思想の源流 … 古代ギリシア				
2	さまざまな人間観 … ソフィスト				
2	… ソクラテス				
2	… プラトン				
2	… アリストテレス	8	民主社会の倫理（ホブズ・ロック・ルソー、自由・平等と民主主義）		
4	… ヘレニズム	6	自由と社会的公正（アダム＝スミス・マルクス・レーニン、社会民主主義）		
2	… 禅の思想	6	幸福追求と社会全体の幸福（ベンサム・ミル）		
4	… 黒沢明「生きる」	4	民主主義と価値の追求（プラグマティズム）		
2	… 星野富弘のえがくもの	6	自己実現に向けて（キルケゴール・ニーチェ・ヘーゲル）		
2	試験（記述式）	2	試験		
	以上、小柳担当分		以上、中野担当分		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	元田康夫 五十川説 小鉢暢夫	3全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新版 微分と積分(1)」古屋 茂監修 大日本図書 「新版 微分と積分(2)」古屋 茂監修 大日本図書					
問題集：「新版 微分と積分問題集」古屋 茂監修 大日本図書					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：前期で微分法の応用と積分法の基本的事項を、後期で積分法の応用と偏微分法を習得する。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>学習方法：進度はゆっくりのようでも、まず確実に新しい知識が説明されるし、前に習った内容と関連があるので、消化不良を起こさないように予習・復習をしっかりとすること。特に問題を沢山解くことが大事である。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質および2年で習った微分法の基本的性質を十分に理解しておくこと。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
	テキスト「微分と積分(1)」 第3章 微分法の応用		テキスト「微分と積分(2)」 第1章 定積分の応用		
16	2. 関数の変動	22	1. 計量への応用		
6	3. 関数の展開	6	2. 物理への応用		
	第4章 積分法	2	後期中間試験		
6	1. 不定積分（置換積分法まで）		第2章 偏微分法		
2	前期中間試験	20	1. 偏微分法		
8	1. 不定積分（部分積分法、いろいろな関数の積分）	8	2. 偏微分法の応用		
22	2. 定積分	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 小原康博	3全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 「新版 代数と幾何」 古屋 茂監修 大日本図書 「新版 微分と積分(2)」 古屋 茂監修 大日本図書					
問題集: 「新版 代数と幾何問題集」 古屋 茂監修 大日本図書 「新版 微分と積分問題集」 古屋 茂監修 大日本図書					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標: 前期で3次までの行列と行列式の基本的事項を、後期で2階まで微分方程式及び2重積分を習得する。					
評価方法: 主に各種の試験(4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験)で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。					
学習方法: 週1回しか講義がないから、特に実行して欲しいのは習った所はすぐに問題を解くようにし、わからない所を残さないようにしておくこと。					
必要な予備知識: 2年で習った平面や空間図形とベクトル、2、3年で習う1変数関数の微分と積分の基本的な定理や公式を充分に理解しておくこと。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
28	テキスト「代数と幾何」 第4章 行列と行列式 1. 行列と1次変換	4	テキスト「微分と積分(2)」 第4章 微分方程式 1. 微分方程式と解		
2	前期中間試験	10	2. 1階微分方程式の解法		
28	2. 連立1次方程式と行列式	16	3. 2階微分方程式の解法		
2	前期末試験	2	後期中間試験		
		18	第2章 2重積分 1. 2重積分		
		10	2. 2重積分の応用		
		2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態	
保 健 体 育	宅島 章 四宮一郎 高見信義 粟谷 教	3全	2	必	週2時間通年	
教科書・参考書等						
副教材: 「イラストによる最新スポーツルール百科」 大修館書店 「救急安全教本」 大修館書店						
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等						
1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。						
2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。						
3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。						
4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。						
5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。						
授業進度・内容						
時数					時数	
6	全	4/12~4/26	スポーツマン適正テスト測定		16	3期 12/13~2/21 1班 サッカー 2班 ハンドボール 3班 ソフトテニス 女子 バドミントン
16	1期	5/10~9/27	担当者 四宮 高見 粟谷 宅 島			
	1班	ハンドボール				
	2班	ソフトテニス				
	3班	サッカー				
	女子	バレーボール				
6	全	6/21, 6/28, 9/6	水 泳			
16	2期	10/11~12/6	担当者 高見 粟谷 四宮 宅 島			
	1班	ソフトテニス				
	2班	サッカー				
	3班	ハンドボール				
	女子	サッカー(室内)				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 III (オラル・コミュニケーション)	弓削 美代子	3年全	5 (1)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「Sailing Oral Communication B」吉田幸子，他著，啓林館					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：話し手の意向などを聞き取る能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p> <p>授業方針：・学生の興味を喚起する、ペア・ワークなどの活動に重点を置く。 ・発音のポイント、文のストレス、イントネーションなど、発音の基礎的指導と共に自然な口調で話したり、聞き取ったりできるように口頭練習などを行う。 ・個々の学生に発表の機会を与え、他の学生の評価も加えて授業に全員が参加できるようにする。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加、クラス全体の学習やペア・ワークなどへの取り組みの姿勢、個人としての取り組み、提出物そして定期考査を統合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
7	Unit 1 1. 自己紹介の方法 2. 聞き分けにくい英語の音と早口言葉 3. 英語の基本リズム 4. 音のつながりと変化、「なぞなぞ」 5. 情報の聞き取り Sound Practice 1	3 5	10. 道案内の表現 Sound Practice 2 11. スポーツ特有の表現・実況放送 12. 服装を表すことば・制服に対する考え方のちがい 13. 説明・指示の聞き方		
1	前期中間考査	1	後期中間考査		
6	Unit 2 6. 家族の構成員とその特徴の表現 7. 飛行機の利用に必要なことばや表現 8. ニュース放送を聞くときの5W1H 9. 男女交際に関する日米の文化の違い・誘う時の表現	5	14. ジョークの聞き方 15. 日本人の集団行動に対する意見のちがい・自己主張、あいづち表現 Sound Practice 3		
1	前期期末考査	1	後期期末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 高見信義	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：「イラストによる最新スポーツルール百科」 大修館書店 「救急安全教本」 大修館書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に遺した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。 					
授業進度・内容					
時数					時数
6	全 4/12~4/26 スポーツマン適正テスト測定				
16	1期 5/10~9/13			担当者	
	1班 ゴルフ			高見	
	2班 卓球			宅島	
	3班 バドミントン			四宮	
18	2期 9/20~11/29			担当者	
	1班 バドミントン			四宮	
	2班 ゴルフ			高見	
	3班 卓球			宅島	
18	3期 12/6~2/21			担当者	
	1班 卓球			宅島	
	2班 バドミントン			四宮	
	3班 ゴルフ			高見	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 IV (総合英語)	山田 章則	4年全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『This is Europe』 John H. Randle, 辻 昌宏著, 成美堂					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎的な技能・知識の習熟と完全を図ると共に、各領域の技能・知識を応用・発展させることを目標とする。各専門英語について、基礎・基本的な能力を養う。</p> <p>授業方針：予習が十分なされていることを前提に、コミュニケーションの4技能がバランスよく育成されるように、講義・解説・演習・言語活動を各々のレッスンや授業の重点目標に沿って適宜織りまぜて行う。専門英語については、各専門に応じたオーセンチックな教材を随時授業に取り入れて、実践的な教育を図る。授業の定着を計るために、確認テストやレポート等を随時課す。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加と、クラス全体の学習に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
3	1. Making the European Union	2	13. Italy: North and South		
3	2. How the U.E. Works	2	14. Italians: Leaders of Style		
3	3. Austria: Land of Music	2	15. The Portuguese, Who Sailed the World		
2	4. Belgium: A Question of Language	2	16. Danes and Vikings		
2	5. The Dutch Made the Netherlands	2	17. Sweden: Top Prizes		
2	前期中間考査	2	18. Norway: Fjords and Oil		
2	6. Luxembourg: Sitting Pretty?	2	19. Finland: Looking East and West 専門英語		
2	7. La Belle France	2	後期中間考査		
2	8. France: At Great Speed	2	20. Spain: the Land of the Sun		
2	9. The Berlin Wall	2	21. A Taste of Paella		
2	10. The Germans: All Work and No Play?	2	22. Switzerland: Banks and Neutrality		
2	11. Greece: the Cradle of Europe	2	23. A Union Inside the Union		
2	12. The Emerald Isle	2	24. The British: Europeans and Islanders		
2	前期期末考査	2	後期末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
文 学	金芳憲雄	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：「大炊介始末」山本周五郎 新潮文庫 ：自主教材（近現代文学の小品等）					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>学習目標：(1) 小説を読む楽しみを知る。 (2) 人間の心理の機微に目を開く。 (3) 時代・社会・人間と文学との関わりについて考える糸口を見出す。</p> <p>授業方針：追体験をするようなつもりで読み深めることから始める。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p> <p>学習方法：(1) 種々の角度から内容をとらえつつ、読み通す。 (2) 読みとったこと、発見したこと、考えを刺激されたこと等を確認するために、作品の紹介、人物評、読後感等を記す。 (3) それらを基に、読みや感想を深め合い、関連する種々のテーマについて考える。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
14	ひやめし物語 山椿 おたふく		16	ちゃん 牛 自主教材	
2	前期中間試験		2	後期中間試験	
14	よじょう 大炊介始末 こんち午の日		10	自主教材	
2	前期末試験		2	学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
法 学	川井健次	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「初めて学ぶ 法学」 湯浅道男、岸 昭道編著 成文堂 参考書：「法学入門」 円藤重光 築摩書房					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 社会の秩序維持、経済取引の安全等の基本を構成している法を理解させることを目標とする。</p> <p>授業方針： 現実の社会の中で生起している身近な法現象をテーマとして取り上げながら、そのテーマに関連する法律について、なるべく、体系的に理解させたい。</p> <p>評価方法： 本試験の点数を中心に、レポートの提出状況、内容等の吟味、受講態度等を総合的に評価したい。</p> <p>学習方法： 日頃の講義を意欲を持って（判りたい、理解したい）受講させること。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
4	1. 社会生活と法 (i) 法とは何か	8	2. 日本国憲法 (i) 日本国憲法の基本的な考え方		
4	(ii) 法の適用	8	(ii) 基本的人権の保証		
4	(iii) 家族と法	8	(iii) 統治の機構		
4	(iv) 犯罪と法律	2	3. 法の基礎理論 (i) 法の根本問題		
4	(v) 財産と法	1	(ii) 法と慣習		
4	(vi) 企業と法	1	(iii) 法の効力		
4	(vii) 職場と法	2	後期試験		
2	前期試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
経 済 学	時松雅史	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『経済原論』 日高 晋 有斐閣 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 経済学がどのような学問かを学生に知ってもらうとともに資本主義経済に貫徹する諸法則を理解させる。さらに現代の経済現象を経済学的に整理できる能力を養う。</p> <p>授業方針： 教科書の通読を中心とし、それを補足するプリントを読み理解していく。夏休みには経済小説等の感想文を課題とする。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験と夏休みの感想文により評価を行う。</p> <p>学習方法： 授業の説明をよく聞き、教科書、ノートをよく読むこと。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
4	序 論 経済学とは何か	8	資本の再生産過程		
10	第一篇 流通論 商品、貨幣、資本について	8	第三篇 分配論 利用について		
	前期中間試験	6	後期中間試験		
8	第二篇 生産論 資本の生産過程	8	地代、利子について		
8	資本の流過程		マルクス以降の経済学		
	前期末試験		学年末試験		

授業科目名	担当教員	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新訂・興味のもてるドイツ語」新妻孝一、西村佑子著 同学社 辞書：「アポロン独和事典」根本道也他編 同学社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標：ドイツ語の発音、文法の基礎を身につける。 授業方針：テキストに従いながら、できるだけ疑問点を残さないように進む。 評価方法：試験に拠るほか、レポートの提出状況、授業態度なども加味する。 学習方法：参考書を併用して、理解を確実にする。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数			
1-3 週	発音辞書のひき方、動詞の現在人称変化など。 名詞、冠詞類。	1-3 週	形容詞の格変化など。		
4-6 週		4-6 週	動詞の過去、バイエルンの歴史に関する長文。		
7-9 週		7-9 週	助動詞の用法など。		
10- 12週	代名詞、会話体の文。 前置詞、長文 接続詞、動詞の位置、zu不定詞、ドイツの都市についての長文など。	10- 12週	完了形、分詞、関係代名詞。		
13- 15週		13- 15週	受動態、今日のドイツに関する長文。		

授業科目名	担当教員	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	鶴田義郎	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「中国語ABC」鶴田義郎 熊本創元社出版 参考書：「中国語学習ハンドブック」相原 茂 大修館書店 辞書：「簡明中日辞典」東方書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
授業目標：最近日本と中国との交流が盛んになってきているので、中国との交流に役立つ中国語の習得を目標としたい。 授業方針：発音と会話に重点をおいて授業を進める。 評価方法：主として各種の試験（4回の定期試験、それに毎週行う小テスト）で評価を行うが、出席や授業態度なども加味する。 学習方法：テキストの本文はローマ字のみにしたので、辞書をひいて漢字に改める訓練をする。毎時間テープを使用して耳で聞く訓練をする。また本文は会話体にしてあるので交互に会話の練習もさせる。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数			
6 6 4	1. 発音の基礎訓練 アルファベット 子音 母音 四声	6	3. 簡単な教室会話の演習		
1		10	4. 文型の反復練習を通じて文法の習得につとめる。		
1	前期中間試験	1	後期中間試験		
6	2. 四声の練習及び標点符号用法	12	5. 最近の中国事情の紹介		
8	3. 簡単な教室会話の演習	1	学年末試験		
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
哲学	小柳正弘	5全	2	必	週6時間 4月 - 7月
教科書・参考書等					
口述講義を中心とする。 参考文献については、文献案内を配布し、講義の中で詳しく紹介する。 資料は必要に応じて適宜、印刷物を配布する。					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標・方針：哲学とはどのようなものかについて、おおまかであってもオーソドックスな理解を得るとともに、さまざまな考えかたのパターンを学ぶ。</p> <p>学習方法：しっかり講義をきいて、しっかりノートをとる（私語をしない）。 内容的には、「ある立場にたった場合、ある問題について、どのように考えることができるか」ということについて、きちんと理解することが重要である。</p> <p>評価方法：授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験では、答案以外のところでの弁明を一切うけつけないので、明せきかつ判明な日本語で解答すること。</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
2	ガイダンス … みずからをふりかえる。				
2	ガイダンス … 教養とはなにか。				
	哲学関係参考文献案内				
2	・事典、辞書、学史、雑誌				
2	・入門書、論理学、倫理学、他				
4	さまざまな哲学観 … 哲学の内外からの肯定と否定				
	哲学とはなにかという問をめぐる問題				
2	・問の端緒				
4	・古代ギリシアとの連関				
2	・問の帰結				
	哲学の諸問題				
	・認識の問題				
4	鏡像の示すもの				
2	ハンソンとクーン				
	・行為の問題				
4	バスカルとよきサマリア人のたとえ				
2	試験（記述式）				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
美術史	佐藤伸二	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書： 使用せず、プリント資料配布					
参考書： 『やきもの』 吉田光邦 NHKブックス 『やきもの文化史』 三杉隆敏 岩波新書 『中国陶磁史』 佐藤雅彦 平凡社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 日本人はやきもの好きで、日常生活でのかかわりは深い。日本のやきものの特徴を理解させ、それを通して日本人の美意識について考えさせる。</p> <p>授業方針： やきものに関する用語や分類等の基本的な知識を身につけさせ、陶磁全集等の写真を見せ、やきものを見る目を養わせる。授業後には毎回短い感想を書かせる。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験と授業後に書かせた感想により評価を行う。</p> <p>学習方法： 説明をよく聞き、写真ををよく見ること。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
6	1. やきものの分類と特色			5. 日本のやきもの歴史と特色	
6	2. やきものの原料と製作法		4	(イ) 土器と須恵器	
			4	(ロ) 瀬戸焼の成立	
			4	(ハ) 江戸時代のやきもの	
4	3. 中国のやきもの歴史と特色 (イ) 磁器が生まれるまで		6	6. 茶の湯の美意識とやきもの	
	前期中間試験			後期中間試験	
8	(ロ) 五彩ができるまで		6	7. オランダへ輸出された日本のやきもの	
6	4. 朝鮮半島のやきもの歴史と特色		6	8. やきものに見る日本の美	
	前期末試験			学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
言語学	清水紀佳	5	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
プリントを用意する					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標： 言語構造の核心を解析する方法を練習問題を通して身につける。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
14	音声学	14	形態論		
14	音韻論	14	統語論		
2	期末試験	2	期末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
健康科学	宅島章 四宮一郎	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：「ヘルス&フィットネス」 増田卓二 他 ナカニシヤ出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>近代化が進んだわが国では、日常生活を営んでいく上においては、自らの高い体力は要求されず、労作は全て機械化されている現状にあり、これらの弊害は、成人病の急増としてあらわれ社会問題となっている。このような環境下にある今、われわれは健康な生活を送るには「いかなる栄養を摂取し」、「いかなる運動をし」、「いかなる体力を維持する必要があるか」を学び、実践する必要がある。授業では上記3本を柱にし、学年末には、試験を行う。</p> <p>実技においては、ゴルフ、バドミントン、ローラースケートを取り入れ、技術の向上は当然として、その種目における生体負担度も測定し、自己の体力及び健康度を把握させたい。</p> <p>受講上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 時間を厳守すること。 2. 体育実技を伴うので必ず正課体育服で参加すること。 3. 体調を十分に整え、積極的に授業に参加すること。 					
授業進度・内容					
時数	実 技	時数	理 論		
6	全 4/13~4/27 スポーツマン適正テスト測定	8	第1章 現代人の健康 1. 平均寿命・余命と疾病構造の変化 2. 現代社会の特徴と健康問題 3. 健康づくりの指針		
24	ゴルフコース 5/11~2/1	8	第2章 健康づくりと運動 1. 運動のエネルギーと酸素の役割 2. 有酸素運動と無酸素運動 3. 健康づくりのための運動 4. 運動処方		
24	バドミントン・ローラースケートコース 5/11~2/1	8	第3章 栄養・運動と肥満 1. 食物の成分とからだの成分 2. 運動と栄養 3. 肥満と栄養 4. 肥満治療		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ハーメルンのねずみ取り」 F・ティッセン著 白水社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業方法：ドイツ語の読解力を身につける。</p> <p>授業方針：教室での和訳の発表を基礎にする。</p> <p>評価方法：定期試験、平素の学習成績を考慮して行う。</p> <p>学習方法：参考書を併用して、理解を確実にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
	<p>(中間試験まで) テキストの和訳。1解ページ前後読んでゆく。 接続法、関係代名詞を学習する。</p> <p>(前期末試験まで) テキストの和訳。伝説の背景。 受動態を学習する。</p>			<p>(後期中間試験まで) テキストの和訳。全般的に文法を補強する。</p> <p>(学年末試験まで) テキストの和訳。テキストの内容と関連した事柄。</p>	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	鶴田義郎	5全	2	選	週時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「中級漢語」 豊福健二他 駿河台出版社					
辞書：「簡明中日辞典」 東方書店					
参考書：「現代を読む 時事中国語」 国際語学社					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>授業目標：最近日中両国間の交流が盛んになってきておるので、中国との交流に役立つ中国語の習得を目標としたい。</p> <p>授業方針：4年のとき学んだ基礎的な文法や表現法の復習を行ったうえで、中国旅行会話を中心として、表現力を養成するとともに、中国の故事(物語)も講読する。</p> <p>評価方法：主として各種の試験(4回の定期試験、それに毎週行うヒヤリングの小テスト)で評価を行うが、出席状況や授業態度なども加味する。</p> <p>学習方法：本文は会話体にしてあるので、教官と学生、学生相互の会話実習をする。テープを使用して耳で聞く力を養う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
4	1. 発音の復習		1 4	5. 文型の反復練習を通じて文法の習得、表現法の習得につとめる。	
6	2. 基礎的文法及び表現法の復習		1	後期中間試験	
6	3. 中国旅行会話文型を中心として演習する。		1 4	6. 中国の故事(物語)を中心に、講読をすすめ、中国人の心の世界を理解する。	
1	前期中間試験		1	学年末試験	
1 4	4. 中国旅行会話文型による文法の理解につとめる。				
1	前期末試験				